
事例2 産官学連携のコンソーシアム等の編成

〔事例A〕産官学連携のマッチング

(1) コンソーシアムの編成

まだ、プレ調査が進められている段階で、現時点では明確なことはいえないが先端技術と人材育成の2分野で準備中である。大学や公設試験研究機関、ベンチャー企業などが中心になって、17年度申請する予定で、特に先端技術の分野では、短期で終了することなく、中長期的にクリエイション・コア東大阪が拠点の一つとして位置づけられる。

(2) 研究開発支援ネットワーク（仮称）

大学の研究室で使用する機器類については、現在見直しを進めるところも多くそのような分野で周辺の中企業が貢献できるはずである。大阪大学からご提案をいただき、3月始めには、具体的な内容のヒアリングを現地で行い、研究室の環境整備の面でかかえている問題点を調査した。入居大学や関係機関にもご協力をいただき、研究機器のみならず、事業化シーズも強く意識したマッチング機能をあわせもったネットワークにすべきであろう。

(3) 産学による研究会

昨年から今年に入って、入居大学を中心に大学主催によるプレゼンテーションが盛んに行われている。その中で、研究会活動が既にスタートしている。但し、それについては機密保持の関係で内容はオープンにできない。現在、検討中のものとしては、“ユビキタス社会研究会”で大阪電気通信大学や産業技術総合研究所（関西センター）などに相談を持ちかけている。

また、大阪工業大学後藤先生の発案で“環境・分析”を中心とした大学と企業のネットワークも新年度よりスタートすることになるであろう。

〔事例B〕個別企業のマッチング

コーディネータ会議が毎週金曜日に開催されているが、そこで発表されたA社とB社にアプローチした。A社はオムツの処理機器を発案していたので、東大阪商工会議所主催の展示会（経営革新コーナー）を紹介。知的財産の問題もあり、申請を16年10月に行い、11月の展示会に出展することになった。

また、B社は、横浜で開催された国際展示会とジェトロの交流事業を紹介、昨秋には海外に渡航し、有力企業と交渉中である。